2019年
4−9月期

県内景況・確報

◎概況　**県内景況は、拡大している**

●2019年4−9月期 おきぎん「カトレア」景況図●

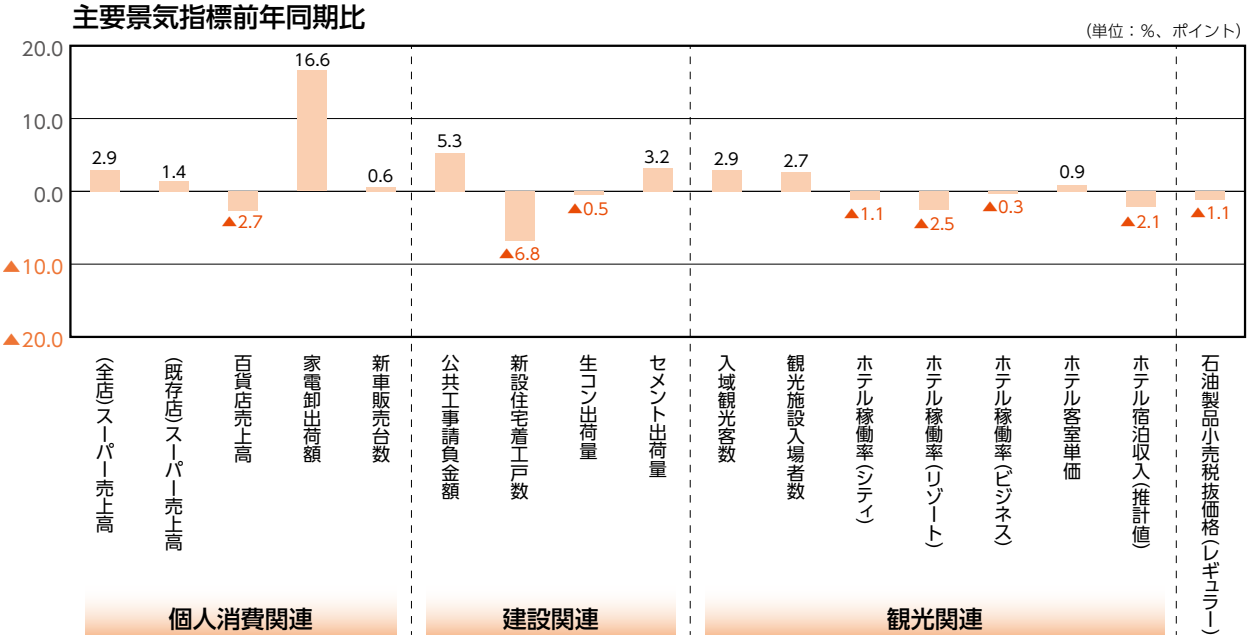
2019年4−9月期の県内景況は、**個人消費関連**では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同期を上回りました。百貨店売上高はインバウンド需要の減少などにより、前年同期を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、消費税増税の駆け込み需要などにより、前年同期を上回りました。新車販売台数も、前年同期を上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、市町村や国による発注工事の増加などで前年同期を上回りました。新設住宅着工戸数は前年同期を下回りました。建設資材である生コンは前年同期を下回り、セメントは上回りました。

観光関連では、入域観光客数は、前年同期を上回り上半期として過去最高を更新しました。観光施設入場者数は前年同期を上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同期を下回りました。ホテル客室単価は前年同期を上回り、宿泊収入（推計値）は前年同期を下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連では堅調な動きが継続していることなどから**「県内景況は拡大している」**と景気判断をしました。

主要景気指標前年同期比

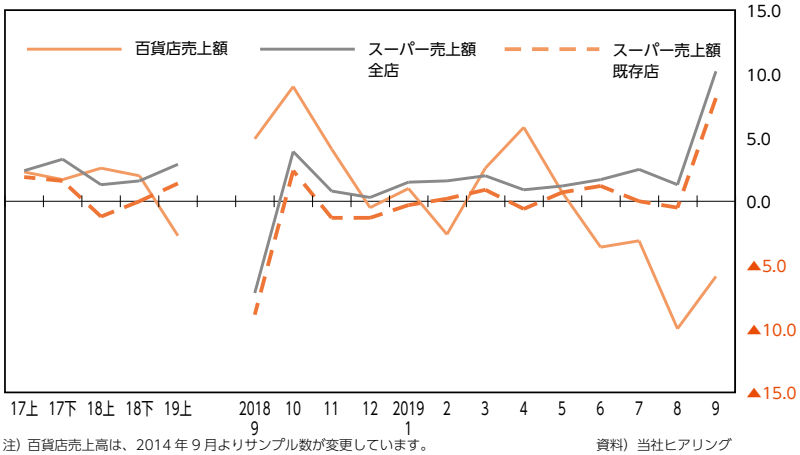


個人消費 （やや良い）

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同期を上回る。百貨店売上高は前年同期を下回る。

2019年4－9月期の個人消費関連では、**スーパー売上高「全店ベース（前年同期比2.9％増）」**は、前年同期を上回りました。品目別では、「衣料品（同1.8％増）」や、ウェイトの高い「食料品（同1.5％増）」は、新規出店効果などにより、前年同期を上回りました。また、家電を含む「家庭用品（同8.4％増）」は、消費税増税の駆け込み需要などにより、前年同期を上回りました。

前年同期比、前年同月比



注）百貨店売上高は、2014年9月よりサンプル数が変更しています。　資料）当社ヒアリング

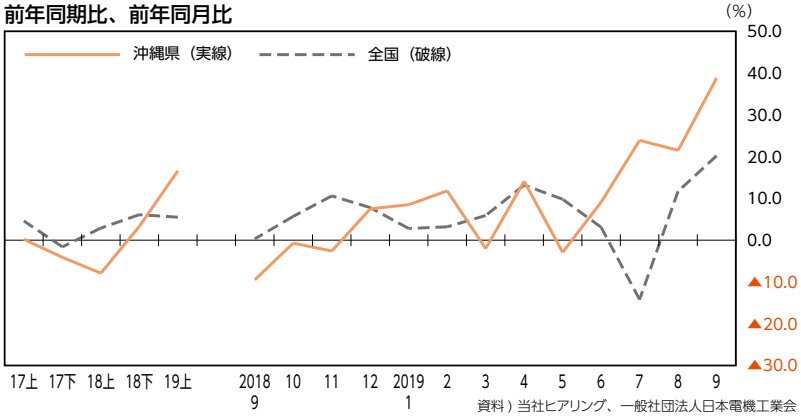
「既存店ベース（同1.4％増）」は、前年同期を上回りました。（以下、既存店ベース）品目別では、「衣料品（同2.2％減）」は、夏物商材の需要が伸びなかったほか、新規出店による店舗数の増加などから、全般的に売上が減少し、前年同月を下回りました。一方、ウェイトの高い「食料品（同0.9％増）」は、前年に台風の影響で落ち込んだ反動などにより、前年同期を上回りました。家電を含む「家庭用品（同4.1％増）」は、消費税増税前の駆け込み需要などにより、白物家電や日用品等が伸び、前年同期を上回りました。

百貨店売上高は、全般的に伸びず、前年同期を下回りました（同2.7％減）。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品（同3.0％減）」は、「紳士服（同2.3％減）」、「婦人服（同3.1％減）」など、販促強化を図るも、夏物商材を中心に需要が伸びず、前年同期を下回りました。「雑貨（同12.3％減）」、「身の回り品（同10.4％減）」は、インバウンド需要の減少などにより前年同期を下回りました。また、「食料品（同0.4％減）」は、催事企画の開催時期、天候不順などの影響により売上が伸びず、前年同期を下回りました。

② 家電卸出荷額…消費税増税の駆け込み需要などにより、前年同期を上回る。

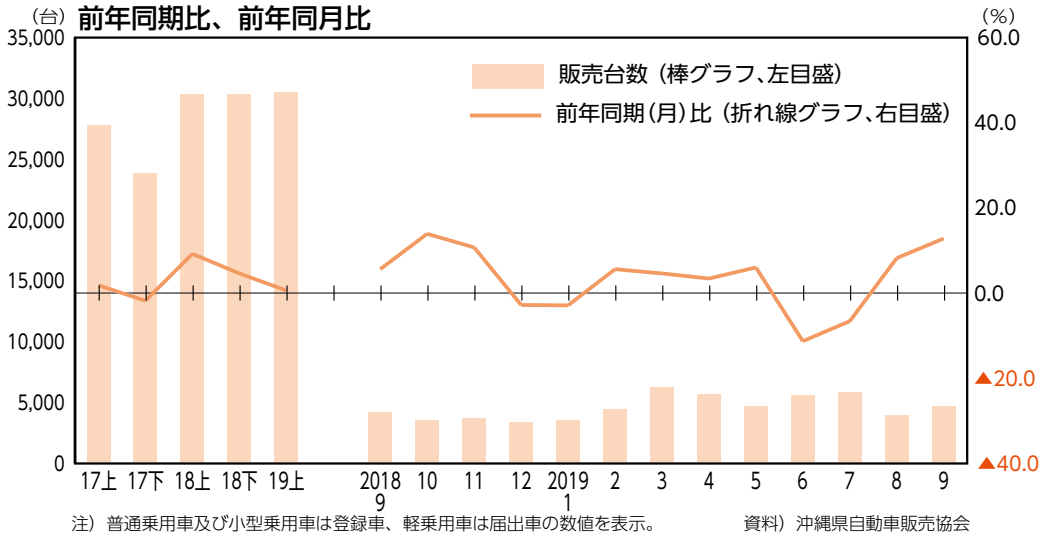
家電卸出荷額は、前年同期を上回りました（同16.6％増）。品目別では、「テレビ（同5.9％増）」、「冷蔵庫（同17.1％増）」、「洗濯機（同15.9％増）」は、消費税増税の駆け込み需要により、前年同期を上回りました。「エアコン（同9.9％増）」は、前年に比べ平均気温が高く推移したことや、消費税増税の駆け込み需要などから、売り上げが伸び、前年同期を上回りました。

前年同期比、前年同月比



資料）当社ヒアリング、一般社団法人日本電機工業会

③ 新車販売台数…自家用車需要の増加から、前年同期を上回る。



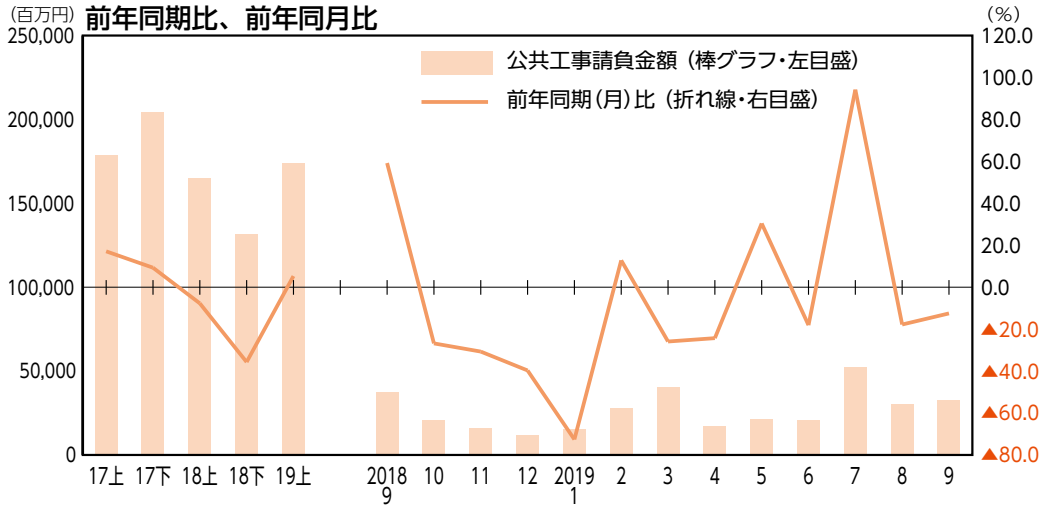
注）普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。　資料）沖縄県自動車販売協会

新車販売台数は、全体で30,514台（同0.6％増）となり、前年同期を上回りました。車種別では、「普通乗用車（同1.8％増）」、「軽乗用車（同3.7％増）」は、消費税増税の駆け込み需要により、自家用車需要が増加し、前年同期を上回りました。「小型乗用車（同8.3％減）」は、自家用車需要は増加したものの、レンタカー需要の減少により、前年同期を下回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

建設関連 （良い）

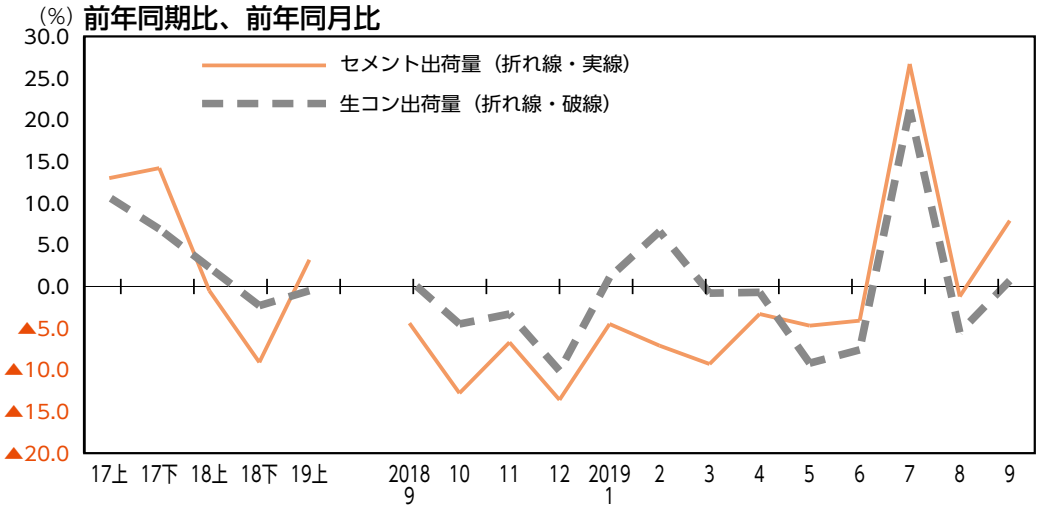
① 公共工事…公共工事請負金額は前年同期を上回る。



資料）西日本建設業保証沖縄支店「公共工事動向」

2019年4－9月期の公共工事請負金額は、前年同期比5.3％増の1,734億9,000万円となりました。発注者別でみると、「市町村（同22.7％増）」や「国（同7.2％増）」、「独立行政法人等（同10.7％増）」、「その他の公共的団体（同4.3％増）」は前年同期を上回りました。一方、「沖縄県（同18.6％減）」は前年同期を下回りました。

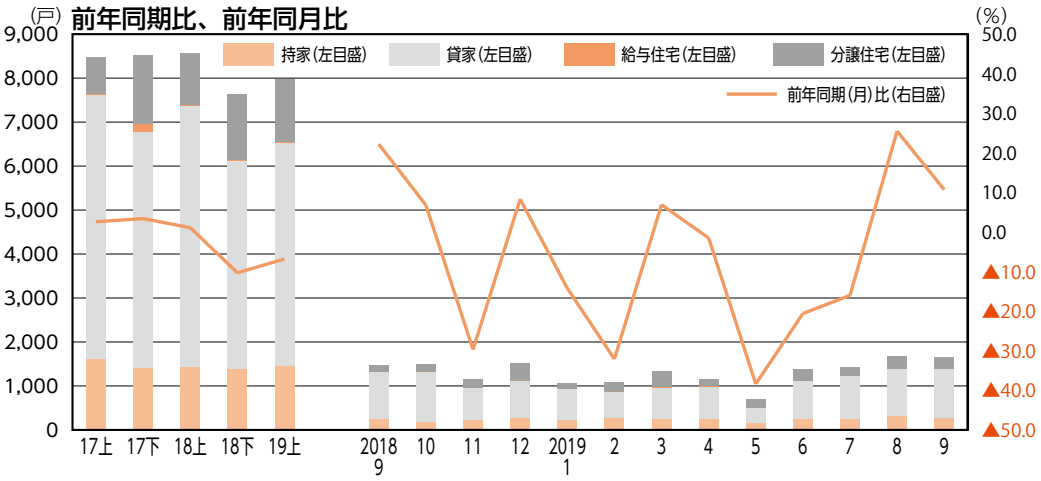
② 建設資材…生コンは前年同期を下回り、セメントは上回る。



資料）当社ヒアリング等による

建設資材関連では、**生コン**の出荷量は0.5％減と前年同期を下回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同期より0.1％下回り、民間工事向け出荷は0.7％下回りました。**セメント**出荷量は3.2％増と前年同期を上回りました。

③ 新設住宅着工戸数…着工戸数は前年同期を下回る。

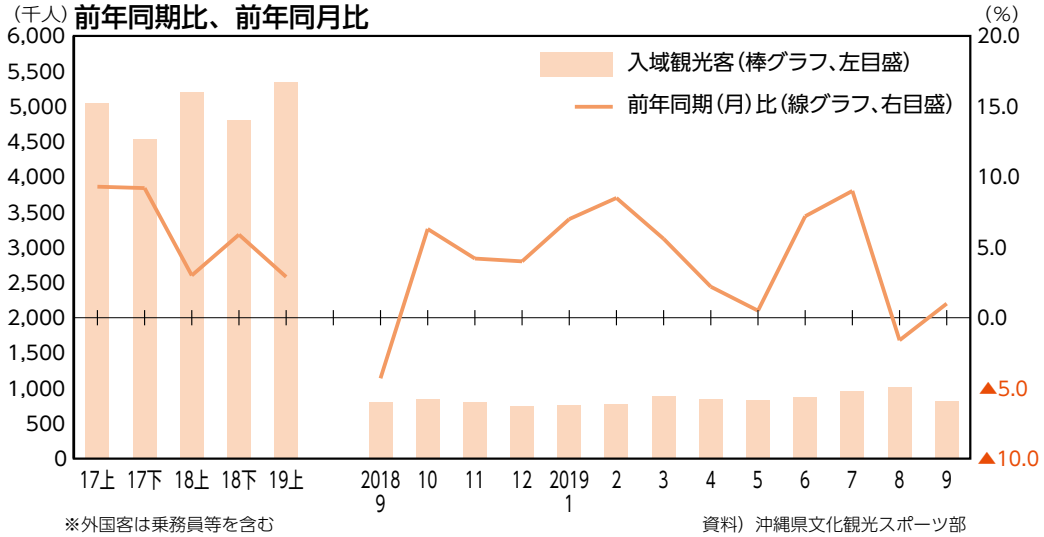


資料）国土交通省「住宅着工統計」

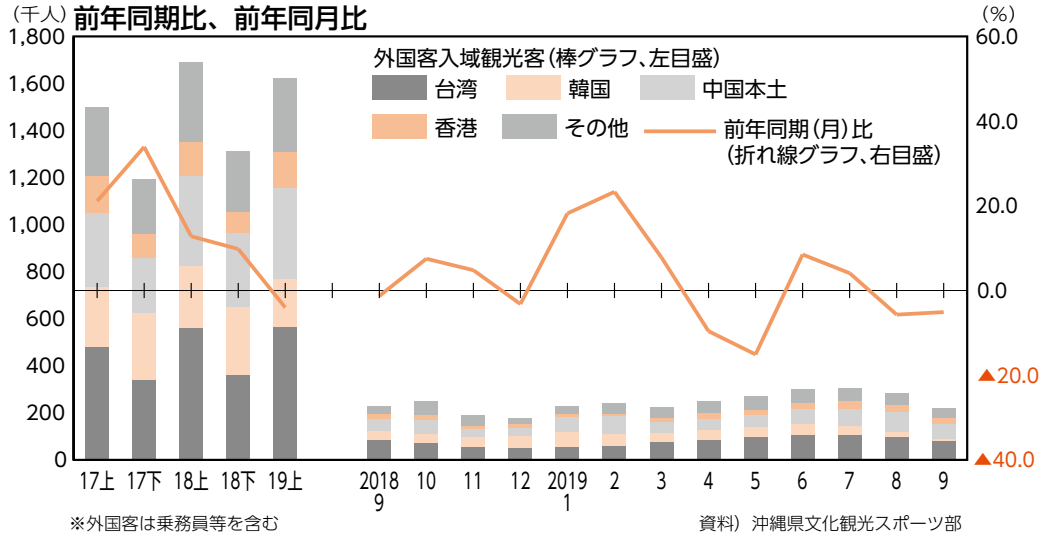
新設住宅着工戸数は、全体で7,976戸となり6.8％減と前年同期を下回りました。利用別戸数をみると、「分譲住宅（同22.5％増）」や「持家（同1.7％増）」は前年同期を上回りましたが、ウェイトの高い「貸家（同14.4％減）」のほか、「給与住宅（同55.9％減）」は下回りました。

観光関連 （良い）

① 入域観光客数（国内客・外国客の合計）…前年同期を上回る。



外国客 入域観光客数…前年同期を下回る。



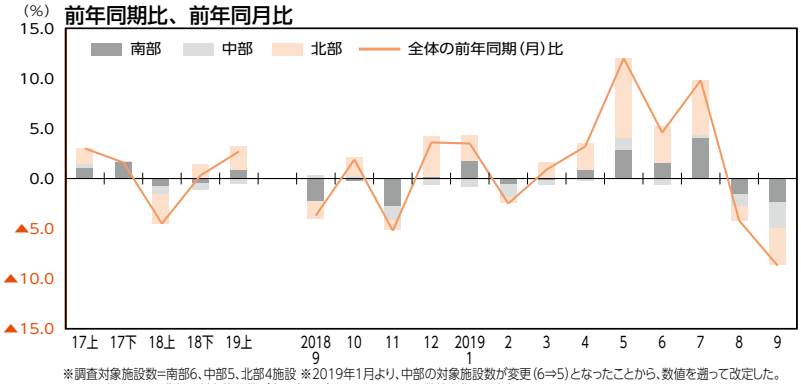
2019年4－9月期の入域観光客数は534万8,600人となり、前年同期を2.9％上回りました（上半期としては過去最高）。内訳をみると、「国内客（同6.3％増）」は、ゴールデンウィークが10連休となり4月では初めて60万人を超えたことや、新規就航（関西－下地島路線）等を含む航空路線の拡充があったことなどから、前年同期を上回りました。

他方、「外国客（同4.0％減）」は、ゴールデンウィークに伴う旅行商品の高騰や、クルーズ船の寄港回数が減少したことに加え、韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便などにより前年同期を下回りました。

※乗務員等を含む数値を掲載

② 観光施設入場者数…前年同期を上回る。

観光施設入場者数は、全体で前年同期より2.7％増加しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同2.0％増、北部は同4.7％増と前年同期を上回り、中部は同5.1％減と前年同期を下回りました。

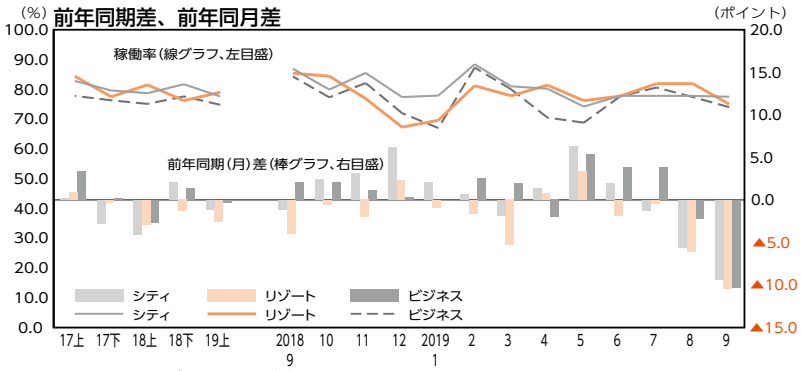


※調査対象施設数=南部6、中部5、北部4施設 ※2019年1月より、中部の対象施設数が変更(6⇒5)となったことから、数値を遡って改定した。
※2019年3月より、北部の対象施設数が変更(5⇒4)となったことから、数値を遡って改定した。
グラフは全体の寄与度を表示。

資料）当社ヒアリング

③ ホテル稼働率…シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同期を下回る。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが77.6%と前年同期差1.1ポイント減少、リゾートホテルが79.0%と同2.5ポイント減少、ビジネスホテルが74.8%と同0.3ポイント減少しました。

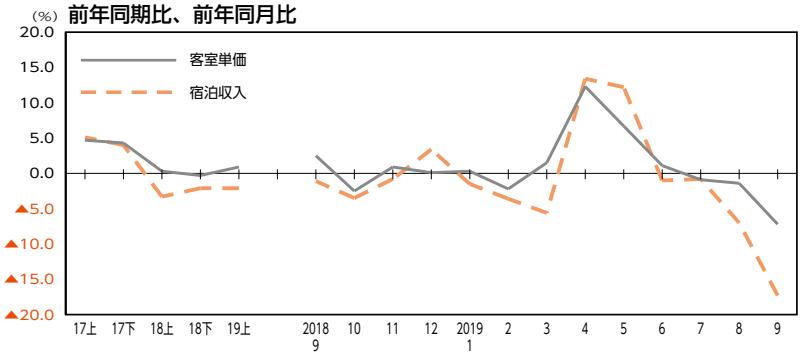


注）シティ 8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス6ホテル
注）2019年3月より、ビジネスホテル対象施設数が変更(7⇒6)となったことから、数値を遡って改定した。
※公表後に改定する場合があり最新公表資料が確定値とする。

資料）当社ヒアリング

④ ホテル客室単価・宿泊収入…客室単価は前年同期を上回り、宿泊収入は下回る。

ホテル客室単価（シティ＆リゾート）は前年同期比0.9％増と前年同期を上回りました。**宿泊収入**は同2.1％減と前年同期を下回りました。



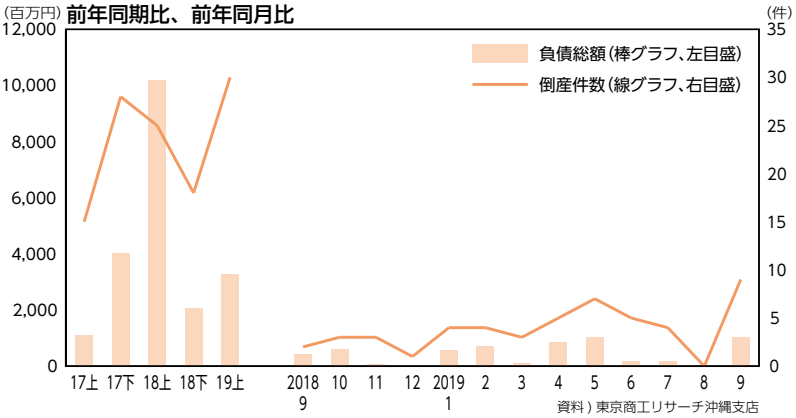
※対象施設数：26施設（シティ 8、リゾート18）、ビジネスは除く
※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額（稼働率及び客室単価より当社推計）
※公表後に改定する場合があり最新公表資料が確定値とする。

資料）当社ヒアリング

企業倒産 （やや良い）

企業倒産…件数は前年同期を上回り、負債総額は下回る。

2019年4－9月期の企業倒産件数は、30件（うち負債総額10億円以上の大型倒産はなし）となり、前年同期より20.0％上回りました。**負債総額**は32億7,200万円となり、前年同期を67.9％下回りました。

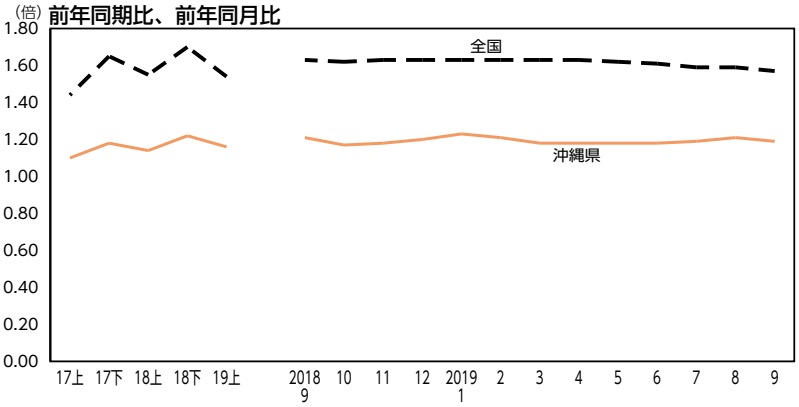


資料）東京商工リサーチ沖縄支店

雇用関連 （良い）

有効求人倍率…沖縄は前年同期より上昇、全国は低下。

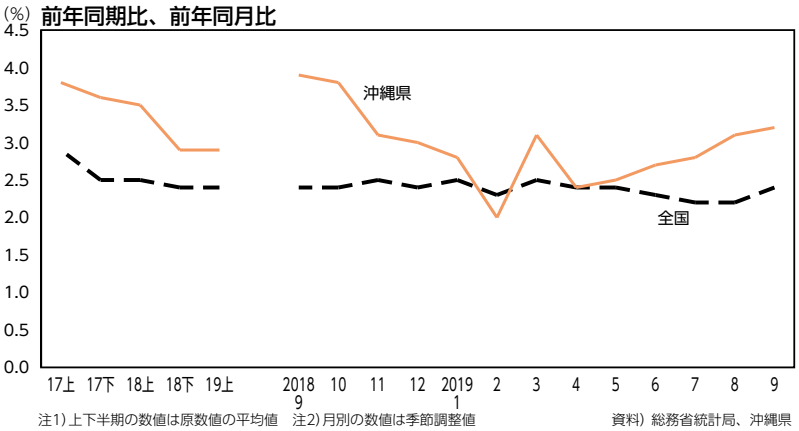
2019年4－9月期の雇用状況は、有効求人数（上半期平均）は前年同期比4.3％増の30,012人に対して、有効求職者数（同上）は前年同期比3.1％増の25,953人となり、有効求人倍率（同上）は1.16倍となり前年同期より0.02ポイント上昇しました。



注1）上下半期の数値は原数値の平均値　注2）月別の数値は季節調整値　資料）沖縄労働局職業安定部、厚生労働省職業安定局

完全失業率…沖縄、全国はともに前年同期より低下。

2019年4－9月期の完全失業率（原数値平均）は、2.9％となり前年同期より0.6ポイント低下しました。



注1）上下半期の数値は原数値の平均値　注2）月別の数値は季節調整値　資料）総務省統計局、沖縄県